

平成18年度の鳥取県立博物館

1 総 論

(1) 組織

博物館及び平成18年4月から新たに博物館に附置された山陰海岸学習館の管理運営を適正かつ円滑に執行するため、学芸課内に山陰海岸学習館担当及び普及担当を新たに設置した。さらに、学芸課の分掌事務を一部改正して、組織について所要の改正を行った。

- ① 「山陰海岸学習館」に関する資料の収集、保管、展示、調査研究、利用指導、助言及び普及のため、職員1名と非常勤職員1名及び臨時職員2名（うち1名は夏季のみ）を配置した。
- ② 故遠山正瑛氏が県に寄贈した約7万点に及ぶ各種資料の整理分類作業を博物館が担当し、鳥取砂丘こどもの国旧レストラン棟に開設した「遠山正瑛資料室」で整理作業を行うため、非常勤職員1名と臨時職員1名を配置した。
- ③ 特定化学物質による資料燻蒸から職員による日常的な総合的有害生物管理（IPM）への切り替えへのため、非常勤職員1名を配置した。

(2) 資料の収集・調査研究

貝類コレクション、旧鳥取藩士資料、写真資料など数百点から数千点に及ぶ大量資料群の受贈や貴重資料の購入や修復保存等に努めた。また、学芸員はそれぞれの研究テーマに沿った調査研究を継続し、その成果を各種の展示や普及事業及び刊行物等を通して県民へ還元した。

また、博物館資料の新しい管理システムを構築するために、先行的に平成19年1月から自然部門の資料約62,000点の電子台帳による管理システムへ完全移行した。

(3) 展示

特別展3回、企画展2回、県展1回4会場、美術系常設展示9回を行い、当初の目標入館者数を上回る実績を達成した。

特に自然系企画展「遠い海」は、特別展を含めた総入場者数としては開館以来5番目となる実績を残した。さらに、美術系特別展「沖 一峨」は、全国美術館連絡協議会が平成18年度に創設した「第一回 美連協大賞」で奨励賞を受けるなど国内で高い評価を得た。

第50回県展では、その審査方法や審査員選考の改正、審査の開示内容の拡充、運営委員の拡充等の開催に関わる基本的な内容の改正を行った。

美術系常設展示では、はじめての子どもたちを対象にした夏休み企画展示の開催や学芸員と中学校美術教師による連携企画展示の開催など新しい試みを行った。

(4) 教育普及

普及担当の新設に伴い、館内外での普及活動が充実した。中でも学校教育や生涯学習と連携した巡回展、移動博物館、出張美術教室の総実施会場数は50会場に及び、平成17年度の27会場に比べて大幅に増えた。また、各種講座等を含めた年間の総事業数・総参加者数は135回32,000人余に及んだ。

(5) 来館者サービス

博物館利用者の感動と体験の拠点としての博物館を目指して、博物館の魅力向上に取り組んだ。

その一環として、ミュージアム・グッズ等の展示・販売コーナーの拡充と販売グッズ類の拡充に努めた。中でも、「沖一峨」展での風呂敷や一筆箋などの関連オリジナルグッズ類の販売や博物館の展示や収蔵資料に関連する本県の伝統的な民工芸品の展示・販売も好評である。

2 各課の概況

(1) 総務課

- ・山陰海岸学習館及び遠山正瑛記念資料室が新たに附置
- ・山陰海岸学習館ペレット利用空調設備工事等実施

(2) 学芸課

●自然担当

- ・展覧会の開催：企画展「遠い海」
- ・自然資料充実事業
- ・自然資料修復事業
- ・寄贈植物標本整理事業（2カ年）2年目

●人文担当

- ・展覧会の開催：特別展「女ならでは世は明けぬー江戸・鳥取の女性たちー」
- ・歴史民俗常設展示室改善充実事業（6カ年）3年目
- ・藩政資料整備事業（14カ年）2年目
- ・館蔵考古資料保存修復事業（3カ年）2年目
- ・遠山正瑛資料収蔵調査事業（3カ年）1年目

●普及担当

- ・新設（H18.9.1）定数1
- ・移動博物館、移動美術館の募集及び調整
- ・博物館ホームページの管理
- ・ニュースレター「MUSEUM PRESS 鳥取県立博物館ニュース」の発行

●山陰海岸学習館

- ・野外観察会や自然講座などの普及事業の開催
- ・館内リニューアル事業の準備

(3) 美術振興課

- ・展覧会の開催：特別展「沖一峨ー鳥取藩御用絵師ー」
特別展「東京都現代美術館所蔵 デイヴィッド・ホックニー版画展」
共同企画展「郷土作家展『海と空と 角護・石谷孝二』」
- ・特別展「沖一峨」が美連協大賞奨励賞（美術館連絡協議会）を受賞
- ・石谷家（智頭町）資料整理調査事業（3カ年）3年目
- ・絵画資料修復保存事業（5カ年）4年目